

教育目標		『すべての子どもを幸せに』～豊かな心を持ち、自立してたくましく生きる児童の育成～						
重点目標		・「生きる力」を育み未来への道を切り拓く力の育成(生涯にわたる可能性とチャンスを最大化) ・子どもたちの学びを支える環境の充実						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な知識技能を習得させる。 ・授業力の向上と授業改善をめざして校内研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題や課題を最後までやりきらせるよう支援する。 ・漢字や計算などの小テストを実施する。 ・めあてを提示し、ふり返り等で理解を確認しながら授業を進める。 ・校内研修として、すべての教員が年1回以上授業公開する。 ・他校の研究会に一人一回以上参加できる体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出率が90%以上になる。 ・小テストを月4回以上行う。 ・すべての教員が年1回以上授業を公開する。 ・児童アンケートにおいて「先生は教え方に色々工夫している」との回答が90%以上になる。 ・他校の研究会に一人一回以上参加する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出は、各クラスのほぼ決まった児童が未提出となっている。全体としては、90%になっている。昨年度との比較では3%の減が見られる。 ・漢字については小テストをほぼ月4回以上行い、習得の確認ができた。計算については月4回以上は実施できないときもある。 ・すべての教員が年1回以上授業を公開することができた。 ・児童アンケートにおいて「先生は教え方に色々工夫している」との回答では、Aが81%、Bが17%で、合計98%になった。 ・他校研究会に1回以上参加し、授業力向上・授業改善について考えを深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活の中で学習する習慣がつきにくい児童がいるため、学校での指導が生かされにくい状況にある。引き続き、家庭にも協力をお願いし、学校で可能な限りやりきらせる。 ・算数については単元毎にスモールステップで子どもの実態を知るために小テストを実施する機会を確保する。 ・一人一授業は実施できたが、事後研については時間の確保が難しく深めるには至らなかった。(学年に任せた) ・今後もさらに授業力の向上と授業改善を目指し、教材研究をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が基礎学力の向上に努力している。児童がお互いに関わりをもてる学習スタイルにより児童の自律・主体性を高められるとなお良いと感じた。 ・学校として努力しているのがよくわかる。課題提出については保護者の協力が不可欠である。家庭の協力をどのように得るかの工夫が必要である。 ・学校運営協議会委員により今年度行った九九検定をより長期・計画的に行うなどの支援ができるのではないかな。 ・人手不足の課題は教員を目指す学生サポーターなどの派遣の仕組みづくりをより進めていく必要がある。 ・スタートカリキュラムにつなげていけるように幼小連携を進めていきたい。
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業をすることにより学習意欲を向上させ、達成感を味わわせる。 ・読書活動を充実させ、自ら学び探求する心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NIEやICTを活用した分かる授業を実施し、学習に対する興味・関心を喚起する。 ・全校一斉の朝読書の時間を週3回実施する。 ・読書記録カードを活用することで読書意欲の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく楽しい」との回答が90%以上になる。 ・週60分以上の読書量を確保する。 ・意欲的に読書しようとする児童が増える工夫をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく楽しい」との回答では、Aが63%、Bが30%で、合計93%となった。 ・ICTを活用した授業実践をすることができた。 ・朝読書の習慣が定着してきており、静かにじっくり読書ができるようになってきている。 ・読書週間の取り組みや委員会の取り組みで読書に興味を持つ児童がいた。 ・読書ボランティアや保護者と協力して読み聞かせを行った。 ・家庭での読書ができていないことが課題である。家で読書をしているでは、児童アンケートの結果Aが35%、Bが30%で、合計65%で昨年度を下回った。また保護者アンケートではAが24%、Bが25%で合計が半数に達していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NIEやICT、授業力向上の研修を行い、児童の興味を引きつけるような授業改善を目指す。 ・今後も引き続き、図書の時間に本を借りたり、朝読書をする時間を確保したりして読書の時間を充実させる。 ・学習の合間を利用して本を読む習慣をつけさせる。 ・図書ボランティアと連携し本の読み聞かせなどを実施することで、本への興味・関心を持たせる。 ・生活学習ふり返りカードで読書時間を確保するように促す。 ・週末読書などの宿題をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NIEやICTの活用等により学習意欲の向上を図っているのがよくわかる。 ・家庭での読書時間の確保について課題がある。週末に宿題として出すなどの工夫が必要であり家庭の協力を引き続きお願いしていく。 ・図書の時間での読み聞かせや図書ボランティアドッグイアの活動で本に出合うチャンスが読書への楽しみにつながっていく。図書ボランティアの活用等は今後も続けていくことが望ましい。
	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた支援計画を立て適切に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達検査や診断を受けた児童を中心にサポートファイルを作成する。 ・必要に応じてケース会議をもち適切な対応や支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議を随時、校内委員会を月1回行いニーズに応じて組織的な支援体制を構築する。 ・校内研修を年に2回以上行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から学年会等で児童の実態について情報交換し、ケース会議で話し合うべき事例をあげることができた。ケース会議や校内委員会を月1回行い、実態把握と今後の対応について話し合うことができた。 ・コンサルテーションや教育相談を必要に応じて活用した。 ・校内研修を年度初めと年度末及び夏休みの計3回行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからもさらに深く児童を理解し、実態に即した対応や支援に努める。 ・ユニバーサルデザインの授業づくりについて共通理解し、困り感を持っている児童への適切な支援を行う。 ・必要に応じて、関係機関と連携を取り児童の発達について適切なアドバイスを受けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議や研修を通して特別支援教育の充実に向けよく努力している。 ・発達検査を受けていない児童、支援が必要な児童が増えている。専門の職員が一人でも増員されれば児童の支援につながる。 ・共生社会へお互いの違いを認め合える関係を培うため地域人材を活用した学習の企画を進めていく。 ・幼小のつながりがさらに深まり、安心して対象児童とその保護者が過ごせるように考えていく必要がある。
子どもの問題行動への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動に対する指導体制を充実させる。 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を理解し、指導の徹底を図る。 ・関係機関と密に連絡を取り相談する。 ・いじめアンケート調査を年2回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を年に2回以上行う。 ・児童アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」との回答が85%以上になる。 ・児童アンケートにおいて「学校へ行くのが楽しい」との回答が90%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から学年会等で児童の実態について情報交換し、児童の共通理解と指導方法の共有を行った。 ・問題行動が起こった際は、関係学年と生活指導が一体となって組織的に対応することができた。 ・児童アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」との回答が95%である。また、「学校へ行くのが楽しい」との回答が児童は88%で、保護者アンケートでは97%になっている。 ・いじめアンケートを活用して児童の心情や友人関係を把握し、問題の兆候があった場合は早期対応を行うことができた。 ・不登校傾向の児童に関しては全職員が協力して朝に電話連絡をする取り組みを進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも児童の実態把握に努め、きめ細かく対応していく。 ・子どものよりよい成長のため、保護者や地域とさらなる連携を図る。 ・児童の実態などを職員連絡会で知らせ、共通理解を図る。 ・不登校対策委員会を持ち、職員で共通理解した上で改善策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動や学級の課題について教師間や外部支援との連携がみられ早期発見、早期解決のため全力をあげて取り組んでいることを評価したい。 ・児童アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」との回答が95%であったのは大変良かった。 ・不登校対策等について校内研修会に学校運営協議会委員や幼稚園職員が参加するなど学校と地域が連携して課題解決を図っていく。 	

豊かな心・健やかな体	健康教育の充実	・児童の体力の向上を図る。	・授業で、各学年に応じた運動プログラムを取り入れる。 ・全校業間縄跳び大会を実施する。 ・各学年に応じた運動プログラムをより具体的に簡単な内容にし、研修等で紹介し合う。	・教職員アンケートにおいて「学年に応じた運動プログラムを取り入れている」との回答が90%以上になる。 ・全校業間縄跳び大会を年3回実施する。	A	・「学年に応じた運動プログラムを取り入れている」との回答が100%となった。 ・全校業間縄跳び大会を年4回計画(実施は3回)し、長縄記録を伸ばそうと、運動場で業間休みに練習する姿が見られた。 ・学年が上がるに連れて、休み時間に外遊びをする児童が固定化されてきている。 ・委員会活動の一環としてドッチビー大会やおにごっこを計画し実施した。 ・熱中症対策としてスプリングラーの設置や体育大会のテント使用など子どもの健康に配慮しながら運動能力を伸ばす取り組みができた。	・年間通して業間休みに外で活動できるような運動や遊びを体育や学活等の時間に紹介する。 ・ロードレース・陸上大会・いたっボール・すもう大会などへの参加を促し、練習を重ね大会で結果を出すことで、運動への意欲づけを講じる。ただし休み時間の指導や休日の大会参加について教職員の負担感が増えないような方法を考えていく必要がある。	・体力向上のため安全安心に配慮し運動プログラムを取り入れるなど努力している。体力運動能力テストなどの結果も良かったといえる。 ・地域スポーツ大会に参加する児童が多いことが素晴らしい。また、「学校だより」で広報していただいているので児童の励みになる。 ・学校でのインフルエンザ流行があまりなく健康面でもよかったと思える。 ・学校だけでは難しい点もあるのでSC21等様々なクラブの体験学習や運動器具等の工夫により児童のスポーツへの興味を増やすような取り組みも必要ではないかと思う。
	健全な食生活の推進	・食生活に関心を持ち、健康に生活しようとする児童を育成する。	・食育を給食の時間や授業において推進する。	・児童アンケートにおいて「毎朝朝食を食べている」との回答が90%以上になるように働きかける。 ・給食の残食がなるべくゼロになるようにする。	A	・児童アンケートにおいて、「毎朝朝食を食べている」との回答では、Aが82%、Bが12%で合計94%となった。保護者アンケートでは合計96%となっている。 ・食べ物が自分の健康につながっていることを意識し、栄養バランスに気をつけて給食を残さず食べようとする児童が増えた。 ・給食委員会が「残食0」の週間を実施し全校あげて食育に取り組むことができた。	・栄養教諭と連携し、授業で食事や栄養について取り扱ったり、給食センターからの献立に関するプリントを使ったりし、より食に対する関心を深めていく。 ・食育の学習を学年に応じて進めていく。(食べ物の大切さ、作ってくださっている人への感謝、地球環境など)	・「毎朝朝食を食べている」の回答で学校・家庭の連携が強まっていることが94%の数字でよくわかる。 ・食べ物の大切さについてよく指導していただいている。引き続き家庭への啓発が大切だと考える。
開かれ信頼される学校園	学校情報の発信	積極的に学校情報を発信する。	・学校だよりを発行し、地域にも配布する。 ・ホームページにより学校の情報を積極的に発信する。 ・マナーや生活のきまりを学校だよりに月目標として掲載する。	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・ホームページを月1回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」との回答が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、保護者の願いに答えている。」との回答が90%以上になる。	A	・学校だよりは月2回以上発行した。 ・ホームページで学校の様子を平日毎日知らせることができた。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」との回答では、Aが54%、Bが43%で合計97%となった。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、保護者の願いに答えている。」との回答では、Aが42%、Bが52%で合計94%となった。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学校・学年だよりやホームページなどを通して学校情報を発信している。」との回答ではAが64%、Bが33%で合計96%となった。	・これからも積極的に学校の情報を発信していく。 ・学校だよりや学年通信で生活振り返り週間の実態を公表したり、良い取り組みや課題を紹介したりして、家庭でも工夫改善策が講じられるようにする。	・ホームページや学校だよりで学校の美化、学習の取り組みなどがよくわかる。保護者・地域が学校に足を向ける機会を作ってくれているので大きな成果だと思う。 ・子ども達の姿を伝えることが保護者の安心につながると思う。 ・保護者の学校頼みなどの依存度をもう少し下げられないだろうか。

学校関係者評価総括

- ・学校全体として落ち着いて学習に取り組めているのでそれを継続していくことが大切である。教員が皆協力し指導力の向上に努力している。
- ・児童がお互いに関わりをもてる学習スタイルを今後も工夫し、児童の主体的な学びと学力を高められるとなおよい。
- ・ホームページや学校だよりで学校の環境美化、学習の取り組みなどがよくわかる。保護者・地域が学校に足を向ける機会を作ってくれているので大きな成果である。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・算数については単元毎にスモールステップで子どもの実態を知るために小テストを実施する機会を確保する。
- ・NIEやICT、授業力向上の研修を行い、児童の興味を引きつけるような授業改善を目指す。
- ・今後も引き続き、図書時間に本を借りたり、朝読書をする時間を確保したりして朝読書の時間を充実させる。
- ・読書ボランティアと連携し本の読み聞かせなどを実施することで、本への興味・関心を持たせる。
- ・不登校対策等について教職員と学校運営協議会委員が合同で研修会を開催するなど学校と地域が連携を深め課題解決を図っていく。
- ・学校だよりや学年通信で生活振り返り週間の実態を公表したり、良い取り組みや課題を紹介したりして、家庭でも工夫改善策が講じられるようにする。

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った